様式第１号（第１０条関係）

2024（令和 6）年度業務実績報告書

提出日　2025（令和 7）年 1 月 15 日

１．職名・氏名　　教授・木野龍太郎

２．学位　　学位　博士（経営学）　、専門分野　工業経営論・生産管理論　、
授与機関　立命館大学　、授与年　1999 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
生産管理論Ⅰ（2）3 年生配当　【担当コマ数：15 / 15 コマ】

② 内容・ねらい
モノづくりの技術（生産技術）のなかの製造技術を取り扱い、モノづくりの歴史的な流れを概説したうえで、トヨタ生産方式に代表されるような、日本の製造技術の特徴について講義を行う。管理手法そのものだけでなく、日本企業の持つ競争力と、それを支える技術という側面に着目して、進めていっている。モノづくりに関する基礎知識と歴史的経緯、そして日本の代表的な生産方式であるトヨタ生産方式の仕組み、さらに日本の高品質なモノづくりの土台となっている品質管理手法について学ぶことで、日本の製造技術の発展の経緯や、その競争力の源泉などについて、理解を深めることを目標としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 本年より対面講義を再開しているが、遠隔講義で使用していたツールを併用することで、理解を深める取り組みを行っている。
2. 具体的には、Google Classroom（以下、GC）を主な授業支援ツールとして活用し、配付資料や連絡事項も全て GC にアップロードし、復習がやりやすく出来るように受講生の利便性を図った。関連するウェブサイトや動画資料などを GC にアップロードし、予習・復習などに活用出来る工夫を行っている。
3. 基本的な事項をきちんと理解できるように内容を絞り込んだうえで、講義の復習を促すために毎回の小テストを実施し、単元ごとに提出課題を課すことで、知識の定着を図っている。出席者からは講義の復習になり、理解が深まる、といった肯定的な感想が出されている。
4. 講義内容については、工学的知識をあまり持たない学生であっても理解できるように、なるべく難しい専門用語を使うことは避けた説明を行った。
5. 福井県はモノづくりの盛んな地域であることから、その地域性を活かして地元企業の実例を積極的に取り上げて、理論と実践とをあわせて学ぶことによって、講義内容への理解を深めるとともに、地域への理解を深めることで地元のモノづくり企業が将来の進路となり得ることがイメージ出来るようになった。
6. 授業の内容をサポートする形で動画資料を積極的に活用し、講義内容と関わらせながら解説を行うことで、内容の理解を深める取り組みを行っている。また、必ず感想文を書かせて内容の定着を図るとともに、その内容を授業にフィードバックすることも行っている。上述のように、動画資料は GC にアップロードして何度も見直しが出来るようにしている。当該科目の分野については、学生が日常触れる機会が少ないことから、動画を視聴することで講義内容の理解が深まり関心が高まったという肯定的な感想が多く見られている。
7. 実際の経営者や若手社員をゲストスピーカーとしてお招きし、会社概要やその会社の取り組みに加えて、実際にどのような仕事をしているのかについてもお話頂くことで、経営学の勉強だけでなく将来の進路を考えるうえで役立つようにしている。今年度は本学卒業生をお招きしてお話頂いたことで、学生がよりイメージしやすくなっている）。

☆本年度ゲスト講義**【ゲストスピーカー　2 名】**
・シンフォニアテクノロジー株式会社（東京都）2024 年 7 月 8 日実施
代表取締役会長・本学客員教授 武藤 昌三 氏

同社 豊橋製作所 総務部 安全衛生担当 安藤 大喜 氏（本学経営学科卒業生）
テーマは、モノづくり企業におけるキャッシュフロー経営についてのお話であり、研究開発や生産管理に関わるコストと資金繰りとの関連性について講義して頂いたことで、学生は経営学だけでなく会計学との関連についても学ぶことが出来て、非常に有意義な時間となった。また、ゲストスピーカーが所属する企業は、一般の学生にはなかなか馴染がない企業であることから、採用活動に関する積極的なアピールとして活用することが出来るということもあり、企業サイドにも喜ばれている。実際に採用のエントリー数が増加するなど、双方にメリットがある取り組みとなっている。

8. 3. の小テスト及び確認テスト、6.の動画資料活用、7.のゲスト講義においては、学生の意見を取り込むとともに、質問には電子メールを使って回答するなどによって、双方向的な講義を心がけており、一方向的な講義にならないようにしている。
9. 講義内容が現実の社会とどのように関わっているのかを、学生が理解しやすくするために、しばしば新聞記事などを資料として配布し、理解をさらに深められるようにするとともに、新聞から積極的に知識を吸収することを促している。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
生産管理論Ⅱ（2）3 年生配当 【担当コマ数：15 / 15 コマ】

② 内容・ねらい
「生産管理論Ⅰ」で学んだ製造技術に関する知識を踏まえて、本講義では製品技術を主に取り扱い、日本の製造企業における研究開発体制の特徴と、サプライヤー（資材・部品供給会社）との企業間関係の態様、そして製造業における人材育成や管理と、その背景にある労使関係などについて学ぶ。日本のモノづくりにおける製品開発・購買管理についての知識を深め、それが製造企業の競争力とどのように関わっているのか、またモノづくりの土台ともいえる人事管理・人材育成について学ぶことで、「生産管理論Ⅰ」「生産管理論Ⅱ」とあわせて、日本のモノづくりの技術の全体像とその特徴、競争力との関係について理解を深めることを目標とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 基本的な進め方は「生産管理論Ⅰ」と同じだが、主な受講生である 3 年生が就職活動の直前であることもあり、特に福井県内において盛んな製造業への就職活動を行う際に、知識として役立つ内容を盛り込むことで、学生の進路選択に役立たせるとともに、学習意欲の向上も図っている。
☆本年度ゲスト講師（予定）**【ゲストスピーカー 2 名】**
・株式会社松浦機械製作所（福井市）2025 年 1 月 27 日実施予定
同社 経営企画室 清水 継太 氏
同 内田 裕子 氏（本学経営学科卒業生）

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
基礎ゼミ（2）2 年生配当 【担当コマ数：15 / 15 コマ】

② 内容・ねらい
「モノづくり」を行う企業の経営活動についての資料を読むことによって、企業経営全般について学ぶ。具体的には、資料に基づいて受講者が報告を行い、そこで提示された論点について議論を行っていくことによって、企業経営活動に関する知識を深め、また、資料作成の方法、経営学的な視点、ディスカッションの方法について学ぶ。企業経営（特にモノづくり）に関する知識を深めるとともに、論理的な思考方法や、ディスカッション、プレゼンテーションなどに関するスキルも、高めていけるようにすることが目標である。加えて、これらを学ぶことで、今後の学習計画策定、進路決定につなげていけるようにする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 受講生は、テキストに基づいて分担して報告資料を作成し報告を行う。報告者は、報告のなかでそのテーマに関する「論点」を提示し、議論を行うためのたたき台を提示する。
2. 報告資料は事前に担当教員がチェックを行い、問題がある場合は再提出を求めて、ディスカッションのベースとなりうる資料になるまで徹底して指導を行っている。
3. 報告者のほかに、司会、書記及び議事録作成についてもそれぞれの受講生が担当して、ディスカッションを行っていく。司会は受講者全員がきちんと議論に参加して意見を述べそれら

を整理し、それを全体で共有化できるように書記がまとめていく。議事録作成担当は、そうした内容をまとめて次回に報告し、どのような報告、議論が行われていたのかをきちんと残すようにしている。それぞれを全員が担当するようにローテーションさせて、こうした能力を高めていけるようにしている。

4. なるべく受講生が企業経営の全体像を掴み興味を持ってもらえるように、テキストは平易かつ全般的な内容であり、なるべくアップデートな内容のものを選ぶようにしている。
5. 演習Ⅰ、演習Ⅱの受講生とともに、主に福井県内の製造業を対象とした企業訪問を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。

☆本年度学外実習**【フィールドワーク等　4 件】**

・福井県工業技術センター（福井市）2024 年 4 月 20 日訪問　※合同
・機械工業見本市金沢（石川県金沢市）2024 年 5 月 18 日訪問　※合同
・ふくい DX オープンラボ（坂井市丸岡町）2024 年 7 月 2 日訪問
・本田技研工業株式会社・鈴鹿製作所（三重県鈴鹿市）2024 年 8 月 5 日訪問　※合同

① 担当科目名（単位数）　主たる配当年次等

演習Ⅰ（2）3 年生配当　【担当コマ数：30 / 30 コマ】

② 内容・ねらい

前期は共通テキストを用いてモノづくりの基本的な仕組みを学ぶ。後期からは、自分自身の学問的関心に基づいてテーマを設定し、各自が調べてきた内容をゼミで報告し、議論をしていきながら、卒業論文の基礎となる部分を作り、演習Ⅱの卒業論文作成につなげていく。

ねらいの１つは、モノづくりに関する様々な知識や考え方を学び、また、それに関して議論を行うことによって、企業経営や経済の動向に関する知識を深めるとともに、論理的な思考や分析が出来るようになることである。もう１つは、卒業論文の作成に向けて準備を行っていくなかで、各自がテーマを設定し、資料を調べてまとめるなど、受動的な学習から脱却し、自らの問題意識に基づいて、物事を探求することができるようになることである。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1. 前期では、受講生はテキストに基づいて報告資料を作成し報告を行う。報告者は、報告のなかでそのテーマに関する「論点」を提示し、議論を行うためのたたき台を提示する。なお、報告資料は事前に担当教員がチェックを行い、必要に応じて再提出を求めて、ディスカッションのベースとなりうる資料になるまで徹底して指導を行っている。
2. 製造現場にて撮影したビデオを用いて時間計測の実習を行い、計測したデータを基にして、現場改善につなげるための図表等を作成、改善案を提案させるということを行っている。現場作業の大変さや、工程設計の実態の理解、作業のムダを無くすことの重要性を理解させることにつなげている。
3. 後期には、卒業論文作成のための構想案作成および資料収集を行い、進捗状況を報告していく形を取る。卒業論文はあくまでも学術論文であるという位置づけから、単なる既存文献の知識をまとめただけではなく、必ず「新しい知見」の発見を求めている。そのためには、既存の研究成果をきちんとおさえたうえで、その研究の学術的・社会的な意義や歴史的経緯を踏まえて取り組むよう指導している。具体的には、自分自身でテーマを決め、卒業論文の構想案を作成したうえで、半年間で複数回の報告を義務づけて、資料の作成・報告・ディスカッションを行っている。こうした作業を通じて、大学における「学び」の意味を理解し、また論理的な思考力を高めていけるようにしている。そのため、ゼミで使用する「学術論文の作成要領」を別途作成し、学術論文とはどういうものか、一般的な文章との違いは何かということから、具体的な記述方法、資料収集の方法などについても詳細に説明し、学生に配布するとともに、オフィスアワーなどを活用して別途指導を行うことでフォローを行っている。
4. 主に福井県内の製造業を対象とした企業訪問等を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。訪問した福井県内企業のなかには本学の卒業生・修了生が勤務しており、経営学の学習だけでなく就職に際しての心構えやアドバイスなどをもらうことができた。また、自分自身の研究・教育に関するネットワークを拡げることにもつながった。

☆本年度学外実習（予定含む）**【フィールドワーク等　6件】**
・福井県工業技術センター（福井市）2024年4月20日訪問　※合同
・機械工業見本市金沢（石川県金沢市）2024年5月18日訪問　※合同
・本田技研工業株式会社・鈴鹿製作所（三重県鈴鹿市）2024年8月5日訪問　※合同
・北陸技術交流テクノフェア（福井市）2024年10月17日訪問
・株式会社SHINDO（あわら市）2025年12月16日訪問予定
・山金工業株式会社・森田工場（福井市）2025年1月23日訪問予定
なお、北陸技術交流テクノフェア見学については、北陸技術交流テクノフェア実行委員会（事務局：福井商工会議所）との連携による学生向け企画を実施し、大型バス2台を借りて経済学部の複数のゼミが合同で参加し、学生約90名が福井県内企業の新技術について学ぶとともに、ビジネスマッチングの現場を見学することで、BtoBビジネスの実態について知ることが出来た。あわせて、福井県情報システム工業会とも連携して、同時開催の「ふくいITフォーラム」の学生見学会も並行して実施し、DX分野への関心を高める取り組みも行った。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
演習Ⅱ（2）3年生配当　【担当コマ数：30/30コマ】

②　内容・ねらい
受講生は、「演習Ⅰ」で学んだ内容を基にして、各人が設定した卒業論文のテーマに沿った形で、論文の構想案（問題意識、目的と意義、課題、方法、章構成など）を作成し、必要な資料を収集して、ゼミにて報告を行う。そこでの議論を通じて問題意識を明確にしていく。また、これらを踏まえて受講生には実態調査（企業などへのヒアリング）も実施するように指導している。ゼミでの報告・議論を通じて内容を詰めて、方向を明確にしていきながら卒業研究を進め、最終的に論文を仕上げることが出来るようにする。ここでは、卒業論文の作成を通じて、論理的な思考能力を高めるとともに、そのことを文章としてどのようにしてまとめていくかという、文書作成能力についても高めていくことを目標としている。

③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫
1. 主に福井県内の製造業を対象とした企業訪問等を行うことで、企業経営の実態を知る機会を提供するとともに、今後の学習計画や就職活動に役立てられるようにしている。
☆本年度学外実習**【フィールドワーク等　2件】**
・機械工業見本市金沢（石川県金沢市）2024年5月18日訪問　※合同
・本田技研工業株式会社・鈴鹿製作所（三重県鈴鹿市）2024年8月5日訪問　※合同
2. 卒業論文作成においては、必ず実際の企業への聞き取り調査を行うように指導しており、あわせて「インタビュー調査の実施要項」を作成し、受講生に配布している。これによって、講義で学んだ知識が企業経営の現場とどのようにつながっているかを、より深く知ることが出来るとともに、調査対象の選定、アポ取り、質問状の作成、原稿の内容確認といった一連の手続きを行うなかで、社会に出たときに役立つようにしている。これを通じて、文書作成からビジネスマナーに至るまで詳細に指導しており、社会にでも役立つと考えている。
3. 「学術論文としての卒業論文」という位置づけを明確にしており、論文の体裁や引用の方法、文章の記載方法などについて詳細に指導している。中身についても、先行研究のフォローや新しい知見の発見に重きを置いている。そのため、早めにテーマ設定を行い、通常のゼミの時間以外でも頻繁に個別指導を行うなどすることで、大学での学習の集大成としての卒業論文を、より良いものにするようにしている。
4. 卒業論文報告会を実施し、卒業論文の内容についてパワーポイントで作成・説明をすることを通じて、プレゼンテーションの経験も積ませるようにしている。また、報告会にはゼミの後輩も参加し、次年度の参考になるようにしている。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
経営学総論Ⅱ（2）1年生配当　【担当コマ数：3/15コマ】
オムニバス講義の統括として、各担当者への説明、成績とりまとめ、Google Classroomの運用、及び、講義のオリエンテーション、担当箇所の講義、全体まとめ、を担当

②　内容・ねらい

1. 「経営学総論Ⅰ」で学んだ内容に基づき、経営学科教員がそれぞれの担当する専門科目の概要について講義を行うことで、経営学の基礎的な知識を網羅的に学び、次年度以降の学修の方向性や履修科目の選択に役立てられるようにする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1. セメスター・15 コマの講義を、経営学科の教員がそれぞれ 1 コマ担当し、それぞれの講義は、各専門科目の導入的な内容として、(各専門教育科目の初回講義のイメージ)、今後の講義やゼミの選択に役立てられるようにしている。
2. 各講義を担当する教員間の情報共有については、Google Classroom や Google Drive を活用することによって、講義内容の充実を図っている。
3. 各講義の終了時に課題を出すことで、受講生の知識定着を図るとともに、学生の理解度を教員間でも共有することで、今後の教育に役立てている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

専攻演習Ⅱ（4）博士前期課程 1 年次後半 – 2 年次前半

② 内容・ねらい

1. 北陸地域におけるモノづくり企業の動向を学ぶため、北陸地区最大の展示会の見学を実施。
   ☆本年度学外実習**【フィールドワーク等 1 件】**
   ・機械工業見本市金沢（石川県金沢市）2024 年 5 月 18 日訪問 ※合同
2. 文献・資料のサーベイを行って先行研究をフォローし、専攻演習Ⅰで作成した「修士論文構想案・研究計画案」を練り上げて、修士論文の方向性を定めていくとともに、企業などへの実態調査を実施し、その内容について分析・考察を行う
3. 企業などへの実態調査を実施し、その内容について分析・考察を行うことで実態について知見を深める。
4. 修士論文中間報告会の報告資料案を作成し、報告を行うことで、修士論文の進捗状況を確認するとともに、その方向性や内容について客観的な視点からチェックを行う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1. 社会人院生が受講している状況だが、あくまで学術研究ということを基礎として進めており、先行研究をフォローや事例の取り扱い方、経営学的な位置づけについても徹底指導している。
2. 一方で、実務経験を踏まえた研究テーマとすることで、理論と実践とを組み合わせることで、実証研究としてのレベルを高めている。
3. ゼミは夜間に遠隔形式で実施することで、受講しやすくしている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

専攻演習Ⅲ（2）博士前期課程 2 年次後半

② 内容・ねらい

1. 修士論文中間報告会のコメントを受けて、研究の方向性についてブラッシュアップを行う。
2. 先行研究と照らしあわせながら聞き取り調査の内容の意味づけを明らかにしたうえで、研究の新規性・独自性を追求した論文を仕上げていく。
3. 学術論文の技法に沿った文章の書き方を修得する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1. 企業への実態調査を実施するにあたり、質問事項案の作成指導を行い、聞き取り調査を行う先に対して研究の方向性を正確に伝え、研究の方向性に沿った回答が得られる工夫を行っている。
2. ゼミは夜間に遠隔形式で実施することで、受講しやすくしている。

(2)その他の教育活動

内容

1. 企業訪問については、教育活動の項目に記載しているが、こうした活動については、マスコミや本学 WWW サイトを通じて取り上げてもらうように、広報担当を通じて働きかけを行うことで、本学の活動を対外的にアピールし、大学そのものの広告宣伝につなげるとともに、本学学生の就職先開拓につながった。
2. 学生の課外活動としては、女子バレーボール部の顧問を担当している。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【0 本】
②学術論文（査読あり） 【0 本】
③その他論文（査読なし） (ア)　木野龍太郎「【書評】宇山通『部品共通化の新展開－構造と推移の自動車企業間比較分析－』（創成社、2022 年刊）」工業経営研究学会編『工業経営研究』第 38 巻第 1･2 号、pp.40-43、2024 年 9 月　※招待あり 【1 本】
④　学会発表等 【0 件】
⑤その他の公表実績 【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
なし
(3)特許等取得
なし
(4)学会活動等
・学会での役職 工業経営研究学会・副会長（2024 年 12 月就任）
・学会でのコメンテーター、司会活動 日本経営学会関西部会第 688 回例会（2024 年 12 月 7 日・本学永平寺キャンパス開催） 開催校事務局を担当

５．地域・社会貢献活動

① -1 ① -2 ・ふくい DX 加速化補助金審査委員会・委員（2024 年 6 月 1 日 - 2025 年 3 月 31 日） ・「シン・ものづくり企業」のためのデジタル変革応援事業 支援企業選考委員会 （2024 年 8 月 16 日 - 2025 年 3 月 31 日） ・越前陶芸公園指定管理者選定委員会 審査委員及び外部評価委員会 （2023 年 7 月 20 日 - 2025 年 3 月 31 日） ① -3 ① -4 福井商工会議所「未来に残すべき福井の技術」プロジェクト・サプライチェーン地域連携支援事業アドバイザー（2024 年 9 月 20 日 - 2025 年 3 月 31 日） ② ③ ④ ⑤ ⑥ 【公開講座】 ・「親子で学ぶ経営学―福井のモノづくりと自動車産業との関わりを学ぶ―繊維メーカーの事例より―」（2024 年 7 月 20 日・永平寺キャンパス）**【ゲストスピーカー 1 名】** ゲスト講師：大喜株式会社 デザイン部 小西 亜希羅 氏（本学卒業生） 【開放講義】 ・福井県立福井商業高等学校 2 年生・大学訪問「福井の繊維産業を通して経済学・経営学を学ぶ」（2024 年 6 月 19 日・永平寺キャンパス） ※学部・学科説明の後に実施 ・株式会社フロントページ主催「夢ナビ講義・Video（タイトル：地域で学ぶ経営学-身近なものが生きた教材になる-）」出演（下記 URL を参照） https://douga.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2024004250?is-show-question ・株式会社フロントページ主催「夢ナビ講義・研究室訪問」出演（2024 年 10 月 19 日実施・同日 2 回開催） ・愛知県立蒲郡東高等学校 2 年生進路ガイダンス「大量生産方式の確立とトヨタ生産方式の展開」（2024 年 10 月 30 日・遠隔実施・同日 2 回開催） ⑦ 立命館大学福井県同友会・常任幹事

６．大学運営への参画

(1)補職
・ 経営学科長
(2)委員会・チーム活動
・ 学部内学生支援チーム（障害学生支援部会） ・ 学部内就職支援チーム（就職支援部会） ・ コース制検討委員会 ・ 1 年生相談担当 ・ 時間割・共通科目協議会
(3)学内行事への参加
・ 福井県立福井商業高等学校 2 年生・学部学科説明（2024 年 6 月 19 日） ・ 福井県内進路指導部担当者との意見交換会（2024 年 8 月 23 日） ・ オープンキャンパス・学科紹介（2024 年 8 月 4 日） ・ 白樫祭ミニオープンキャンパス・学部紹介（2024 年 10 月 12 日） ・ 福井県立金津高等学校・PTA 大学訪問（2024 年 10 月 18 日）
(4)その他、自発的活動など